

みんなで見つけて、みんなで作る、
『キケン・発見 探検隊』キット

キットB

「こどもの危険回避能力向上を通じた安全対策強化」の
ファシリテーション・ガイド



目次

放課後児童クラブの活動に、どんなキケンがひそんでる？ アクティビティ① 危険を予測し、対話するための KYT(共通編)	1
▶ はじめに KYT 活動とは.....	1
▶ 活動の中で大切にすること	1
▶ 事前の準備	3
▶ 実施方法(概要)	4
▶ 実施方法(詳細)	5
▶ こどもへの働きかけ、話題提起のポイント	11
▶ KYT 実施後に行いたいこと	12
放課後児童クラブの活動に、どんなキケンがひそんでる？アクティビティ①危険を予測し、対話するための KYT(発展編)	13
▶ はじめに	13
▶ 実施準備.....	13
▶ 実施方法.....	14
みんなが出会ったキケンを共有しよう アクティビティ②みんなで発見、みんなでつくる「●●放課後児童クラブ 安全マップ」.....	15
▶ はじめに	15
▶ 活動の中で大切にすること	15
▶ 実施準備.....	15
▶ 実施方法.....	16

放課後児童クラブの活動に、どんなキケンがひそんでる？ アクティビティ① 危険を予測し、対話するための KYT(共通編)

▶はじめに KYT 活動とは

KYT とは、「危険・予知・トレーニング」の略称です。放課後児童クラブでの生活場面に、「どんな危険が潜んでいるか」を子どもと放課後児童支援員等が対話の中で見つけ出し、危険予知能力を育みます。

本書でいう「ファシリテーション」とは、KYT 活動を円滑に進めるための技法(手法)を指します。参加者の発言を促し、多様な意見を整理しながら話し合いを深め、最終的に合意形成をサポートする行動全般を意味します。

このファシリテーション・ガイドは KYT 活動を行うための参考資料です。この資料の通りに進めることが正解ではなく、各放課後児童クラブの子どもたちや施設の実態を鑑みて、子どもたちが楽しく取り組める方法を見つけるための手引書としてご活用ください。

▶活動の中で大切にすること

- ※ こどもの目線で「危険だ」と感じたもの(「キケン」)を尊重して、進めてください。
- ※ 危険に対する認識の正解・不正解を問う活動ではありません。
- ※ KYT シートに記載の「啓発したい危険」はあくまで一例です。子どもが指摘したキケンが想定と異なっていたとしても、こどもの視点を大事に進めていきましょう。
- ※ 大切なのは、子どもがキケンを安心して発信できることです。「よく見つけたね」とまず受け止め、承認し、みんなでキケンを共有しましょう。周りの子どもや放課後児童支援員等の意見を聞くことで、自分にはなかった視点に気づき、危険を予測する力を高めていくでしょう。
- ※ 放課後児童支援員等も、子どもと一緒にキケンを探す、一人の参加者として活動に参加してください。自分が危ないと思うことはもちろん発信して構いません。それと同時に、こどもの目線でのキケンを受け止める姿勢も大切です。活動を通して、放課後児童支援員等の固定観念を柔らかくすることも、大切にすることの一つです。
- ※ この KYT シートは、通常より多くの危険箇所を意図的に散りばめています。イラストの中に「見て・探して・気づく」ポイントを多く盛り込むことで、子ども同士、また放課後児童支援員等との間で、見つけ方や解釈の違いを楽しみながら話し合えることをねらいとしています。そのため、必ず、全ての危険を一度に扱う必要はありません。情報量が多いと感じる場合には、シートを部分的に区切って使うなど、柔軟に活用していただき、子どもと一緒に楽しみながらキケンを見つけてください。

このキットが意図する活動における「キケン」「危険」とは

このキットが目指す KYT は、必ずしも「正しい答え」を出すことだけをゴールにはしていません。そのため、本ガイドではあえて言葉を使い分けています。

- ※ 「キケン」とは、子どもや放課後児童支援員等が、「危ない」と感じるものやことを指します。つまり、子どもたちが直感的に感じる危なさや、対話の中で見つかる気づきを大切にしています。
- ※ 「大きなキケン」は、より多くの方が同じように「キケン」と指摘したものやこと（「キケン」の重なり）を意味します。
- ※ 「危険」とは、教育・保育施設等における事故報告の集計結果などに基づき、重大事故やけがにつながるリスクがあるものやことを指します。つまりこれは、事故防止のために把握している実質的なリスクといえます。

放課後児童クラブでの KYT は、教育ではなく、遊びや生活を通じた「健全育成」の一環です。そのため、必ずしも統計的に正しい「危険」を当てることだけを目的としていません。

大切なのは、子どもが察知した「キケン」（＝様々な感じ方や意見）を否定せずに受け止め、対話を深めることです。そのプロセスを経て、自分たちで安全を考える力を養い、日々の生活の中で少しずつ危険回避能力を高めていくことを目指しています。



▶ 事前の準備

〈準備物〉

- ① KYT シートに目印を付けられるもの(ペン・磁石・付箋等)
- ② 活動ツールキット A KYT シート(参加しているこどもが見えるように、大きく印刷する)

〈確認事項〉

活動時間	15～20 分程度
活動のタイミング	学期始めのオリエンテーション、長期休暇中、帰りの会の時間など 以下のようなタイミングで、類似の取組をしている放課後児童クラブもあります。 <ul style="list-style-type: none">✓ 毎日、おやつ時間に安全や危険な行為について話をしている✓ 避難訓練の一環として、放課後児童クラブ内のキケン探しを行っている✓ 年度はじめにこどもと遊びのルールを決める際、危険事項を確認している✓ 新しい遊具の導入時や外遊びの前に、危険箇所を説明している✓ 日常的にこども会議を行い、会議の中でイラストを見ながら安全に過ごす方法を考えてもらっている
KYT シートの選定	KYT シートの活動を選定する際には、放課後児童クラブの施設や活動の中で類似する場面があるシート、これから控える活動に関連したシート等、目的に合わせて選定しましょう。
グループ分け (※大人数で実施する場合)	KYT 活動の参加人数が多い場合には、3～6名程度の小グループに分けて、第2、第3ラウンド(後述)を実施することも効果的です。その時は、グループごとに、KYT シートを配ると活動が行いやすくなります。なお、グループの作り方について、学年ごとにグループを分けて作ると、全体共有時に、年齢によるキケンの違いがわかりやすいと考えます。 ※放課後児童支援員等の参加について <ul style="list-style-type: none">・ 放課後児童支援員等は「おとな」グループとして参加しても、各グループに参加してもよいです。・ 低学年の参加者が多い場合は、こどもたちの理解を補うために、数名が補助役として入ると、活動が円滑に進む場合があります。 ※在籍児童数が多い放課後児童クラブの場合 <ul style="list-style-type: none">・ 在籍児童数が多い放課後児童クラブでは、1回につき20人程度を目安に、複数回に分けて同じ内容を実施する方法もあります。その際、学年ごとに分けて実施し、全学年が実施した後に全体で共有する時間を設けることで、学年による「キケン」の違いについて理解を深めることができます。・ 個別で行う場合、グループで行う場合のいずれにおいても、活動の進め方は、後述の4つのステップで共通です。

〈意識すること〉

- ① KYT 活動実施後は、子どもと目標について定期的に振り返りを実施し、子どもたちに定着させることが好ましいです。
- ② 高学年の子どもは低学年の子どもと比べ発言が少ないかもしれませんが、リーダーの役割を付与して、グループ内で対話を促す役割を担ってもらう等も一つの方法です。子どもの気持ちにあわせて進めましょう。

▶ 実施方法(概要)

KYT 活動は第1ラウンド～第4ラウンドまでの4つのステップで実施します。第1ラウンドでは、提示された KYT シートの場面について参加者全員で想像します。第2ラウンドでは、キケンな箇所を見つけ、全体で共有します。第3ラウンドでは、見つけたキケンに関して、事故を防ぐための対応策を検討します。最後に第4ラウンドでは、対応策を実行できるよう、放課後児童クラブとしての目標を立てます。

(第1ラウンド)放課後児童クラブの活動場면을想像してみよう(導入)

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| STEP1 | 活動を始める準備をします。活動目的等を全体に共有します。 |
| STEP2 | ファシリテーターが、KYT シートを子どもたちに提示します。 |

(第2ラウンド)キケンな箇所を話し合ってみよう(キケンの発見・共有)

- | | |
|--------------|---|
| STEP3 | 子どもたちに、危ないと思うことを見つけるよう促します。
子どもたちは、見つけたキケンと、その理由を話し合います。 |
|--------------|---|

(第3ラウンド)大きな事故を防ぐにはどうすればよいか、考えてみよう(対応策の検討)

- | | |
|--------------|---|
| STEP4 | キケンから自分を守るためにはどうしたらいいか考えるよう促します。
子どもたちは、どうすれば大きな事故を防げるか、具体的な対策を考えます。 |
|--------------|---|

(第4ラウンド)大きな事故を防ぐために、目標を立てよう(放課後児童クラブでの目標を立てる)

- | | |
|--------------|---|
| STEP5 | 大きな事故を防ぐために、子どもたちと守ること(ルール)を決めます。
「私たちは〇〇します」というような、放課後児童クラブで守る行動目標を立て、全員で確認します。 |
|--------------|---|

▶実施方法(詳細)

(第1ラウンド)放課後児童クラブの活動場면을想像してみよう | 4分

KYT 活動の説明(目的・活動時間と内容の見通しを持たせる)

STEP1

ファシリテーターが、全体に向かって活動内容を説明します。
活動目的・目安の活動時間・グラドルールを最初に全体で共有します。

Point

グラドルールの設定について



グラドルールとは、KYT 活動に安心して参加するための、全員が守るべきルールです。

こどもが安心して参加しやすくなります。こどもたちに合わせて設定しましょう。

(こどもたちと一緒に決めるのも一つの方法です。)

- 例)
- ・他の人が言ったことを否定しない。
 - ・思いついたら発言しよう。
 - ・イラストと同じように危ないことをした人を知っていても、ここでは責めない。 など

例) 『これは何の絵かな?どんな遊びをしている場面だろう?』

『今から、「キケン」を発見するゲームをはじめます。「キケン」は、みんなが「危ない」と思うことや物のことです。よりたくさんの人が「危ない」と思ったものは、「大きなキケン」です。』

『今から見せるシートには、「危ない!」と思う、「キケン」がたくさん隠れています。』

そんな「キケン」をみんなで見つけるゲームです。』

『これは、みんなが放課後児童クラブで、大きな事故なく、安全に過ごす力をつけるゲームだよ。』

『今から 15 分くらい、やってみよう。』

- * 2回目以降は、『同じ場面でも、新たなキケンを見つけたり、前より危険を避けられるようになったりして
るかな?』と、繰り返し活動をする目的や意義を伝えるとよいです。

STEP2

ファシリテーターが、イラスト(活動ツールキットA KYT シート)を見せます。
こどもたちの反応を見ながら、絵の状況を尋ねたり、設定を話したりして、こどもたちの想像を広げます。

Point

場面設定は、各放課後児童クラブで事故が起こりやすい時期や時間帯等で行うことや、場면을想像しやすいように、身近な例を併せて伝えるとより効果的です。

例) イベントの前後(放課後児童クラブの行事の前、遠足の後、等)、
季節(4月、夏休み)等



例) 『このイラスト、季節はいつ頃かな』
『これは、〇月、〇時くらい、どここの場面です。』
『この場面は、この放課後児童クラブの〇〇とよく似ているね。』

Point

活動に消極的な子どもに対しては、こどもの体調・心理面で普段と違う様子がないか確認し、やりたくないと思う理由を聞いてみます。

例)

(初めての活動で不安がある場合)

『キケンを発見するゲームって何だろうね、はじめは一緒に見てみる?』と活動をそばで見ることを促してみます。こどもが活動に入ろうとした際には、こどもが入るグループに放課後児童支援員等を配置して、グループの進行を補助します。

(他にやりたい遊びがある場合)

他の遊びをやりたいという気持ちを受け止めつつ、『私は〇〇さんと一緒にこのゲームやりたいな』と放課後児童支援員等が活動に誘ってみます。

(集団での活動が苦手なこどもの場合)

同じシートを用いて、放課後児童支援員等が個別での活動をサポートします。

(第2ラウンド)キケンな箇所を話し合ってみよう | 4分

イラストを見ながら、こどもにキケンを考えてもらい、○をつけてもらう
○をつけたキケンでどのような事故が起こりうるか、書き出したり話し合ったりする

STEP3

ファシリテーターからこどもたちに危ないと思うことを見つけるように促します。

イラストの中で、「危ない」と思う場所やことを、考えてもらいます。(1分)

- 例) 『普段、どんな風に遊んでるかな?』
『この絵の中にはどんな遊びがあるかな?』
『「危ない」と思う遊びや場所を探そう。見つけても、まだ、周りの人には言わないで。』



イラストの中で、「危ない」と思う場所やことを見つけた人から、KYTシートに印をつけてもらいます。(3分)

- 例) 『見つけたところに○をつけてみよう。3分以内で、できるだけ多く見つけます。』
『見つけたら、○をつけたところの、どんなところが危ないかも話してみよう。』

- * 参加人数が多い場合には、キケンを見つける活動を、グループに分かれて取り組む方法もあります。
まず、グループごとに1枚のKYTシートを配り、見つけたキケンに印をつけてもらいます。その後、全体共有の時間を設け、グループごとに発見したキケンを発表し、全体に掲示しているシートにも印をつけてもらいます。
- * 発言が難しいこどもについては、付箋に意見を書いて貼る方法もあります。



Point

こどもたちから発言がない場合は、まずシートの場面を想像できるような声かけをします。
身近な例も併せて伝えると、より想像しやすいでしょう。キケンな場面を発見する楽しさを、こどもたちに感じてもらいます。

- 例) 『シートに何が描いてある?』
『この放課後児童クラブと似ているところはあるかな?』
『どんな遊びをしている?』
『どんな子がいる?』

Point

「キケンな場面」が見つからないときには、こどもが視点を広げられるような声かけをします。
「場面の前後」を考えられるような声かけも有効です。

- 例) 『悲しい思いをしている子はいるかな？』
『安全に遊んでいる子はいるかな？』
『このあと、怪我をしそうなのは誰かな？』
『このあと、何が起こりそう？』



Point

「キケンな理由」を尋ねるときには、「環境」と「人」の要因が掛け合わさることで、危険な場面となることへの理解が深められるような発問が望ましいです。

- 例) 『床が濡れていて危ない』
⇒『床が濡れているときに、どんなことをしたら、危ない？』
『床が濡れているときに、〇〇をしたら、なんで危ない？』



(第3ラウンド)大きな事故を防ぐにはどうすればよいか、考えてみよう | 5分

事故防止のためのアイデアを自由に、できるだけたくさん考えてもらう

STEP4

ファシリテーターから、みんなで見つけたキケンから自分を守るためにはどうしたらいいか考えるように促します。

- ・ 多くの人が見つけた箇所や、多くのこどもが盛り上がり、共感を示したりした場面を、「大きなキケン」として、◎をつけます。
- ・ 各 KYT シートに記載の「啓発したい危険」がこどもから挙がらなかった場合には、ファシリテーターが気づいた「キケン」として紹介し、「大きなキケン」の候補に含めます。

Point

「大きなキケン」の決め方・数は、放課後児童クラブにより異なってよいですが、啓発したい危険も含めて、「大きなキケン」を認識できるようにします。

Point

「大きなキケン」となる要素が、自分たちの身近にあることに、こどもたちが気付くような声かけをします。

「大きなキケン」を防止するために、どうしたらよいか考えて、グループで話します。

例) 『それぞれ、危ないって思うことはあるよね、みんなが同じように「キケン」と思うことはあるかな?』
『「大きなキケン」は、この放課後児童クラブの××とも同じだね。(細い廊下を走って、向こうから来た人とぶつかるのは、この放課後児童クラブの〇〇でもいえるね。)]
『実際に危ないことがあった人はいる?どんなことがあったか教えて。』
『(啓発したい危険について)〇〇は、(このような理由で)とても危ないね。
実際に、放課後児童クラブで、××のような事故が起きたこともあるんだって。』
『どうやって遊んだら、事故がおきないかな?』
『「大きなキケン」による事故を防ぐために、みんなにできることはあるかな。』

- * 危険な場所や遊具を実際に見せながら、こどもたちと話をすることも効果的です。



(第4ラウンド)大きな事故を防ぐために、目標を立てよう | 3分

書き出した対応策のうち、「できることは何か」を話し合い、自分たちの行動宣言として発表する

STEP5

大きな事故が起きないようにどうすればいいかをこどもたちと一緒に考え、こどもたちと守ること(ルール)を決めます。

- ・ 「大きなキケン」を防ぐためにできることを、思いついた人・グループに共有してもらいます。その中から、「放課後児童クラブみんなで守るルール」を決めます。
- ・ 「～しよう」という行動目標にして、全員で確認します。

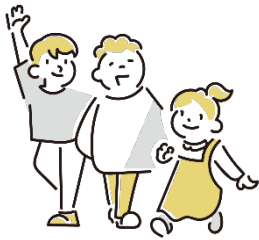
Point

こども自身が決めることが大切ですので、そのプロセスを意識した声掛けをしましょう。

例) 『どんなことができそうか、思いついたことをどんどん教えて。』

『この遊びのルールをきめよう。』

『～をして～をしよう。』



▶こどもへの働きかけ、話題提起のポイント

以下は、こどもたちに働きかける中で、意識したいポイントです。

① こどもの意見を否定せず、キケンを発信したことを承認する

『そんなところに気づくなんて、すごいね！』『それは私たち(放課後児童支援員等)は気づかなかったよ、どうしてそう思ったか教えてくれる？』などの声かけがあります。

② シートを見て、「キケンな場面」そのものだけでなく、キケンな場面の前後で、「この子はどんな気持ちかな？」と気持ち・感情を尋ねる

日常に起こりうるけがとして、遊びに夢中になるあまり、危険に気づかなかつたり、ケンカの延長で事故につながったりすることへの理解を深めます。

楽しく遊んでいても、事故があると、楽しく遊べなくなることへの理解を促し、楽しみながら、安全に、遊ぶことを目指す意識を高めます。

③ 中立の立場を保ち、進行する

こども・大人の意見を、それぞれの目線の違いとして、対等に扱います。「啓発したい危険」に誘導するのではなく、こどもたちの「キケン」に対する感じ方を丁寧に扱います。こども主体で活動が進められるよう、はじめからヒントを与えすぎないことも大切です。

④ こどもの発言内容を整理する

こどもが言いたいことが、他のこどもにわかりやすく伝えられていない場合には、ファシリテーターは内容を整理して言い換える等、こどもの気持ちが伝えあえるように働きかけをします。

⑤ 集団での発言が苦手なこどもに対しては、活動に入ることを目的とするのではなく、「キケン」への意識を高めるための働きかけを個別で行う

個別でシートを一緒に確認する時間を複数回設けたり、具体的な危険箇所を一緒に目視で確認したり、あるいは「後でこっそりキケンを教えてね」と声をかけるなどが考えられます。

▶ KYT 実施後に行いたいこと

KYT 活動実施後は、以下のような振り返りを行うとともに、取組を継続することが、こどもの危険回避能力の向上に効果的です。例えば、放課後児童クラブで行う自己評価の中に、KYT 活動に関する項目を設けるなど、KYT 活動の成果を測定・確認できる仕組みを取り入れることも有効だと考えられます。

こどもに対して

- ・ KYT 活動の中で立てた目標(行動宣言)を、こどもが集まる場面で定期的に確認する。
- ・ こどもが集まる場で、行動宣言を守って行動できた場面を、発表してもらう。
- ・ 施設内に KYT シートを掲示し、日常的に確認できる環境を作る。当日活動に参加できなかったこどもにも、活動内容を周知する。
- ・ KYT(共通編)を複数回実施したのち、KYT(発展編)(p.13)を実施する。

保護者に対して

- ・ KYT 活動で実施した内容(こどもが取り上げたキケンや、行動宣言等)を、保護者に共有し、家庭で話題にしてもらう(おたより・通信、お迎えの際の口頭連絡、保護者会等)。
- ・ 家庭・日常の生活の中でも、KYT で発見したキケンを防ぐための行動を、保護者と一緒に確認してもらう。

放課後児童クラブの活動に、どんなキケンがひそんでる？ アクティビティ① 危険を予測し、対話するための KYT(発展編)

▶はじめに

このファシリテーション・ガイドは活動を進めるための参考資料ですので、全てをこの通りに進める必要はありません。各放課後児童クラブの子どもや施設の実態に合わせて、楽しみやすい方法で取り組んでください。

「発展編」では、「共通編」で使用した KYT シートを、子ども・放課後児童支援員等自身が作成し、オリジナルの KYT シートを使って KYT 活動を行います。「共通編」と比較して、より身近でリアルなキケンを発見することに重点を置いた活動です。そのため、「発展編」は、「共通編」実施後に取り組むことをおすすめします。

《活動の中で大切にすること》

- ※ 「共通編」と同様に、子どもの目線で「危険だ」と感じたもの(「キケン」)を尊重して、進めてください。
- ※ 日常の遊びや生活の中にあるキケンは、大人から見れば「危ないからやめてほしい」行動でも、子どもにとっては「楽しくてワクワクする遊び」である場合があります。子どもにとっての楽しさを踏まえたうえで、「どうすれば事故なく楽しく遊べるか」を、シート作成を通じて子どもと一緒に考え、対話してみましょう。

▶実施準備

〈準備物〉

- ①画用紙・紙
- ②ペン・色鉛筆等

〈確認事項〉

①活動時間の確保

「共通編」の活動時間(15～20分程度)に加え、KYT シートの作成時間を確保します。日々の生活の中で、自由遊びの選択肢の一つとして、KYT シート作成ができると望ましいと考えています。

▶実施方法

KYT シートの作成～〇〇放課後児童クラブの中に潜むキケンを探してみよう～

STEP1 KYT 活動で取り上げる場面を決める

①施設内のキケンな場所を探す

子どもと放課後児童支援員等が、放課後児童クラブの施設内や日頃の活動の中で、危ないと感じる場所を一緒に探します。

「多くのキケンを見つけたチームが勝ち」等、チーム対抗のゲーム形式にすると、楽しみながら取り組むことができるでしょう。

また、放課後児童支援員等は、日誌等に記録されたヒヤリハット(ヒヤッとしたこと・ハッとしたこと)(※)事例から、キケンが予測される箇所を事前にピックアップし、活動の中で取り上げることも効果的です。

(※ヒヤリハットとは、危ないことが起こったけれど、幸い大きな事故には至らなかった事象のことです。)



②発見したキケンを記録する

〇イラストを用いる場合

子どもと放課後児童支援員等と一緒に、放課後児童クラブで起こりうる、キケンな状況を示すイラストを描きます。日々の遊びや生活の中で、ヒヤリハットを感じた場面や、キット A のイラスト等を参考にします。

〇写真を用いる場合

子どもと放課後児童支援員等が共に、キケンな状態になっている場所(遊具や教室内等)の写真を撮ります。イラストや写真等を用いて、KYT 活動で取り上げる場面を決めた子ども・放課後児童支援員等は、その後の KYT 活動で、ファシリテーターの役割を一部担います。

Point

キケン項目は1枚のシートにたくさん入れすぎず、シート 1 枚あたり 5 項目程度を目安とします。シートを楽しく作るために、そのテーマの楽しい様子を考えて描いていくことも意識しましょう。

STEP2 取り上げた場面に関連する「キケンストーリー」を考える

描いたイラストや、写真の中で、「もし〇〇だと、××になる」「〇〇が起きたら、～をしたらよい」等、事故につながる要因と、対応策を事前に考えておきます。

STEP3 KYT 活動を実施する

KYT シートを作成した子ども・放課後児童支援員等がメインのファシリテーターの役割の一部を担い、「共通編」と同様の流れで、KYT 活動を実施します。

みんなが出会ったキケンを共有しよう

アクティビティ② みんなで発見、みんなでつくる

「●●放課後児童クラブ 安全マップ」

▶はじめに

キケン(危険)を記録し、共有するためのアプローチの一例として、「安全マップ」の作成・活用方法を紹介します。「安全マップ」は、「実際にけがをした場所」や「ヒヤリとした場所」ということも自身の経験を、マッピング化する取組です。

子どもと放課後児童支援員等が、日々安全マップを見て、事故が生じやすい場所を確認することは、それぞれの危険予知能力の向上につながると考えます。また、ヒヤリハットや事故・けがが生じた場面についての対話は、実際に危険な出来事が生じたとき、どのように対応すればよいかという、事故対応能力にもつなげられると考えています。

このファシリテーション・ガイドは活動を進めるための参考資料ですので、全てをこの通りに進める必要はありません。各クラブの子どもたちや施設の実態に合わせて、子どもが取り組みやすい方法で進めてください。

▶活動の中で大切にすること

「安全マップ」は、自分が「危ない、ヒヤっとした場所」や「危ない、ヒヤっとした場面を見た」ということも自身の経験を、マッピング化する取組です。活動を通して、子どもが身の回りにある危険を「自分ごと」として認識し、危ないと感じたときに意見を表明できるようになることを目指しています。

貼られたシールの場所について、実際の危険の有無を評価するものではありません。綺麗なマップを完成させるよりも、マップを作成・更新する過程で、子ども同士が互いの経験に関心を持ち、「自分ごと」として危険を認識することや、意見を表明するきっかけになることを重視しています。また、子どもと放課後児童支援員等に、キケンな場所等について、新たな気づきがあることを目的としています。

危なかったことやヒヤッとしたこと等は、思い出すことを嫌がる子どももいます。無理に言わなくてもよいことや、周りから言われることがないように注意して活動しましょう。

安全マップの作成は、放課後児童クラブの活動の一つとして単発で実施することも可能ですが、中長期的な活動として、数か月単位で一つのマップを作り上げていくこともおすすめです。継続的に取り組むことで、子どもたちと危険回避能力を高める活動を日常化することにつながります。

▶実施準備

〈準備物〉

- ① イメージマップ(キット A)
- ② 放課後児童クラブの施設内外(校庭含む)の白地図・イラスト・写真等
- ③ 様々な色・形のシール(書き込み可能な付箋等も可)

▶ 実施方法

STEP1 安全マップについて知ろう

全員が集まる場で、こどもに安全マップの説明をします。

落ち着いて取り組める環境を整えたうえで、活動目的とグラドルールを最初に全体で共有します。

Point

グラドルールの設定について

グラドルールとは、安全マップの活動に安心して参加するために、全員が守るべきルールです。こどもが安心して参加しやすくなります。こどもたちに合わせて設定しましょう。(こどもたちと一緒に決めるのも一つの方法です。)

- 例)
- ・シールを貼った人を責めない。
 - ・ルールを守ってシールを貼る。
 - ・危ないことをした人を知っていても、みんなの前で責めない。



- ※ シールを貼るときのルールを共有します。シールの色や形で、学年やヒヤリハットの内容を分けられるようにします。
- ※ 在籍人数が多い放課後児童クラブでは、学年別(高学年／低学年など)にマップを分けて作成してもよいでしょう。
- ※ 放課後児童支援員等も、ヒヤリハットやけがをした場所にシールを貼ることで、こどもたちが安心して、参加しやすくなる場合もあります。

Point

施設内外の白地図・イラスト・写真等と、完成したマップを両方こどもたちに見せながら、作業手順を説明します。

Point

シールのルールは、こどもたちから募ってもよいです。ルールが決まったら、マップと共に掲示します。はじめはシンプルなルールとし、活動に慣れたらシールの種類を増やすといった工夫を加えていくのもよいでしょう。

- 例)
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 赤色シール:けがをした | ○シール:低学年がけがをした |
| 青色シール:けがはしていないが、ヒヤリとした | ■シール:高学年がけがをした |
| 黄色シール:他人がけがをしているのを見た | 怒り顔シール:放課後児童支援員等に注意された |
| 小さなシール:小さなけがをした | |
| 大きなシール:大きなけがをした | |

STEP2

安全マップを作ってみよう

室内のわかりやすい場所に安全マップを掲示して、こどもたちが好きな時間にシールを貼れるようにします。

シールを貼りにきたこどもには、可能であれば放課後児童支援員等がヒヤリハットの体験を聞きます。事故が起きそうになったとき、周囲の大人に知らせたり、助けを求められたりした場合には、積極的に承認します。

さらに、安全マップにこどもたちが色を塗ったり、絵を描いたりして、マップ自体に愛着を持てるよう工夫することも有効です。

安全マップにシールが集まらない場合には、以下のような取組も有効と考えられます。

- ※ 危険を考える前に、安全な場所を考えてみる
(『どこが安全かな?』と声かけすることで、思考のハードルを下げられます。)
- ※ 高学年に積極的に貼ってもらうよう声かけをする
(高学年の姿を見て、低学年と一緒に取り組めるよう促します。)
- ※ 放課後児童支援員等と一緒に現場を見ながらキケンについて話す
- ※ 危ない場面が生じたときには、「安全マップに貼っておこう」と放課後児童支援員等から声かけをする



例) 『大きなけがにはならなかったけど、「危ない!」と「ヒヤッ」としたり、「ハッ」とした場所はある?』
『遠慮しないで貼ってね』
『どんな風にけがしちゃった?』

安全マップは常にこどもたちが見やすい場所に掲示し、日常的に目にすることができる環境を整えることが大切です。

マップの作成過程で、必ずしもシールが貼られた都度、振り返りの時間を設ける必要はありません。こどもたちが日常的にマップを眺める中で、自ら危険に気づき、学んでいくだけでも、危険回避能力の向上に効果的だと考えています。

安全マップは一度作って終わりにするものではなく、日々更新するものです。そのため、「完成形」はありませんが、季節の変化や学期の区切り、放課後児童クラブに通うこどもが変わるタイミング等で、新たにマップを作り直したり、みんなで見直したりする機会を設けることも有効です。

<新たにマップを作り直す場合>

季節や学期ごとに新しいマップを作成し、これまでのマップとシールが貼られた場所や数を比較することで、時期によるけがの起こりやすさや、危険箇所の違いを把握しやすくなります。

<定期的に見直す機会を設ける場合>

帰りの会やおやつの時間等に、定期的にもみんなで安全マップを眺める時間を設けることも効果的です。

例えば、ある放課後児童クラブでは、帰りの会の中で、「こんなことが危なかった」と意見を出し合う時間を設け

ています。そのような機会に安全マップを活用することで、子どもたちの気づきを引き出しやすくなるでしょう。

振り返り際には、シールを貼った場所について、どのような出来事があったのか等を具体的に記載した付箋を追加していく方法も効果的です。但し、けがをした経験をあまり知られたくない子どももいるため、シールは無記名でも良い、詳細を書かなくてもよいことを伝えましょう。

シールが貼られた場所に気づいたら、みんなで実際にその場所を確認しに行きます。その場所で遊ぶ際のルールや、大きな事故につながらないための工夫や対応策について話し合うことも大切です。

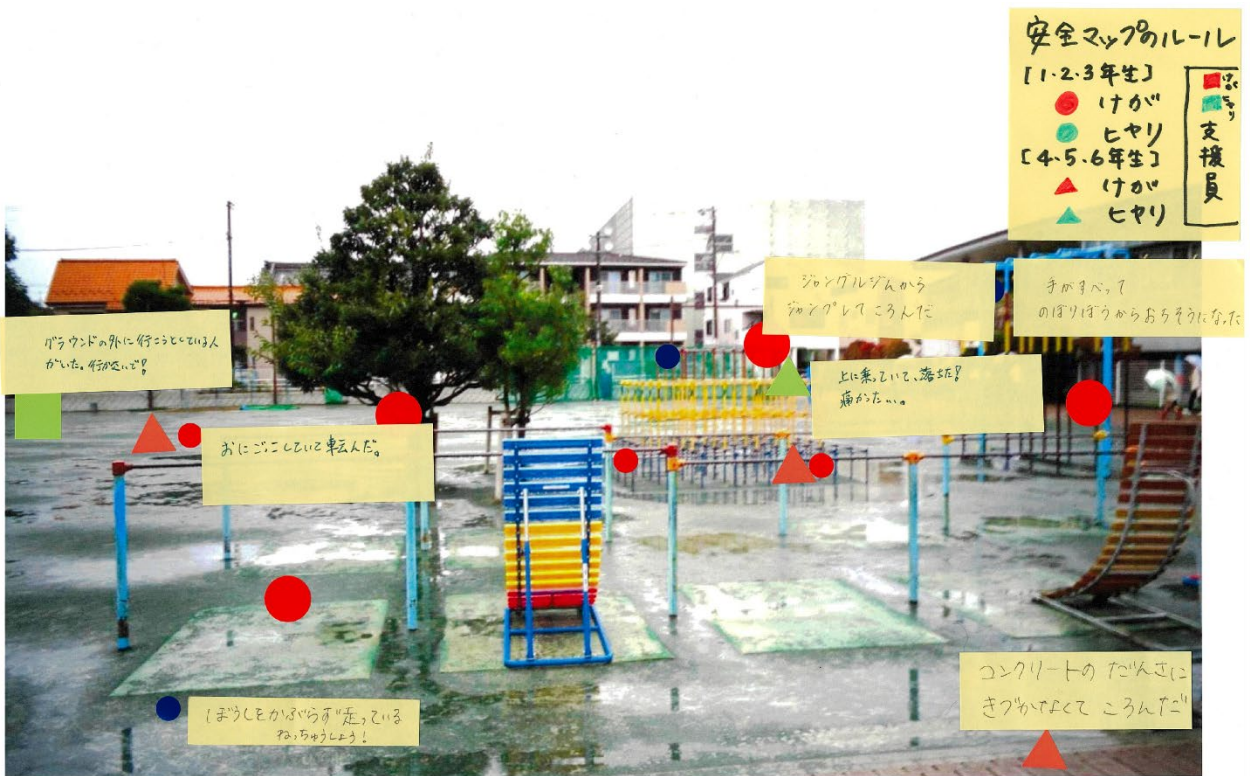
放課後児童支援員等は、安全マップにシールが貼られていることに気づいた際には、その場所を点検したり、子どもたちの話を丁寧に聞いたりするようにしましょう。

なお、シールの内容について、より詳しい内容をその都度把握したい場合には、安全マップの横に目安箱のようなものを設置し、シールの内容について匿名で記入・投函してもらう方法もあります。

Point

マップ内のシールが増えた場所で「気を付けること」を子どもと一緒に考える等、日々の放課後児童クラブ運営につなげるためのアイデアを提案できると望ましいです。

例) 『この場所、シールが3つも集まったから、みんなで対策会議を開こう！』
『最近、〇〇の場所にシールが増えてるね、どんなことがあったか、みんなに教えてくれる？』



放課後児童クラブにおける事故防止(こどもの危険回避能力向上)に関する調査研究 委員(五十音順・敬称略)

氏名	所属
植木 信一	新潟県立大学 人間生活学部子ども学科 教授
金坂 尚人	特定非営利活動法人S-pace 神戸市立六甲道児童館 館長
木宮 敬信	常葉大学 教育学部 教授
鈴木 瞬	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授
高野 直美	群馬パース大学 看護学部 看護学科 講師
高野 由美子	世田谷区役所 子ども・若者部 児童課 課長補佐
塚原 星子	世田谷区役所 子ども・若者部 児童課 課長補佐

活動ツールの作成にあたっては、令和7年度全国こどもの健全育成リーダー養成セミナーの場を借りて、全国の放課後児童支援員の方々から沢山の貴重なご意見をいただきました。
本研究にご協力いただいた全ての皆様に、心より感謝いたします。

「こどもの危険回避能力向上を通じた安全対策強化」のファシリテーション・ガイド
ーみんなで見つけて、みんなでつくる、『キケン・発見 探検隊』キット キットB

令和7年度子ども・子育て支援調査研究事業

放課後児童クラブにおける事故防止(こどもの危険回避能力向上)に関する調査研究

2026(令和8)年3月発行

発行・編集／みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社

社会政策コンサルティング部

〒100-8176 東京都千代田区大手町1-5-5

TEL 03-5281-5276